

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

● Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 170 2012年4月 発行

〈東日本大震災から1年〉OBの被災者に「秋田こまち」を届ける!

今後も各地本OB会から「支援の物資」が……

三月十一日、被災地岩手・宮城・福島の三県をはじめ、日本列島の各地で追悼の行事が行われました。そして地震が発生した午後2時46分には、悲しみを共有する多くの人達によって黙祷がささげられました。

幸いにもJR東労組OB会員には亡くなった人はいませんでしたが、親戚や友人、隣近所の知人を見失った人は大勢いました。

この大震災で亡くなった人は一万五千三百五十人、行方不明者は三十一五人に上り、家屋を失って不自由な避難生活を強いられている人

仲間の義援金で激励

私達本部OB会は、今回の東日本大震災に対して、被災されたOB会員を激励するために、初めて「義援金」の取り組みを行ないました。

その結果、四万五千七百八十五円の温かいお金が集まりました。

私達は、この温かい「義援金」を地震と津波で甚大な被害を受けたOB会員と、東京電力福島第一原発の影響で避難を余儀なくされたOB会員に「御目舞金」として手渡し、激励を行なってきました。

OB被災者は皆元気です

政府や自治体による復旧・復興作業が中々進まない中、地震と津波で完全に自宅を失った一五名のOB会員の内、現在、一名の方は自宅を建て直し、元の生活への第一歩を踏み始めました。また残りの方々も、民間アパートや仮設住宅に住んで不自由ながらも元気に毎日を過ごしておられます。

記憶を途切らせずお互い様の気持で

大震災から一年も経つと被災を免れた人たちは、日常生活に追われ「震災の記憶」も途切れがちになり、決して被災者の苦勞を忘れてはなりません。

それは近い将来「首都直下型地震」や「東海・東南海・南海」等の大地震の発生危険性が高まってきている今日、決して「他人事」ではないからです。ですから私達は「困っている時はお互いさま」の気持ちで助け合い、支え合って生きて行く必要があるのです。



被災後に再建した新居を訪ねた大熊会長と高木さん

本部OB会は、今回の東日本大震災で甚大な被害を受けた盛岡・仙台・水戸・千葉地本OB会の一五名のOB会員に対して、向こう二年間に亘って激励行動を行なっていくことを決定しました。

すでにその第一弾として、一月には秋田地本OB会より「秋田こまち」といぶりがっこが檄紙を添えて各家庭に贈られています。今後も偶数月に各地本OB会から順次各地方の「名産品」や「特産品」をお届けする計画を立てております。

一日も早い復興策を!

大震災から一年たった今日、国会では相変わらず「社会保障と税の一体改革」の柱である「消費税率引き上げ関連法案」をめぐる、民主党内のゴタゴタや自民党を始めとする野党とのかけ引き等に明け暮れております。そのために被災地の復旧・復興策や原発被災者への補償問題等は全く進展しておらず、被災者は完全に蚊帳の外におかれております。

今、コミュニティを破壊された仮設住宅では、孤独死や孤立死する高齢者も出始めております。また職を失い失業手当も切れて、「明日からの生活をどうするか」と不安感に襲われ切羽詰った気持ちに追い込まれている人も大勢います。もうこれ以上弱い人をいじめてはいけません。

一刻も早く、政府や自治体による具体的な復興策と

「明日への希望」が持てるよう被災者と共に声を大にして行きますよう



精神障害者にも

JR運賃割引制度を!

OB声の広場

◇ われわれJR東労組が、知的障害者のJR運賃割引を実施させたのは、平成三年の十二月一日付けであった。ところが精神障害者の割引は、未だに実現出来ていない。

◇ 平成十八年四月に施行された「障害者自立支援法」は「障害一元化」を趣旨としている。JRは弱者に優しい鉄道と言いつつも身体障害者・知的障害者と精神障害者の間に差別をしていると言っても過言ではない。

◇ しのの鉄道は三月一日から精神障害者手帳を持っている人の運賃を半額にする記事が新聞に出た。ところが、しのの鉄道が乗り入れているJRの篠ノ井・長野間は割引が適用されない不便さが生じている。

◇ それは「障害者自立支援法」が成立して以降、法の趣旨に添って見直し改正してこなかった会社と労働組合の怠慢であったと思つ。国土交通省鉄道局によると、全国五十三の鉄道などの事業者が精神障害者の割引制度を導入している。

◇ JR東労組は発足以来会社と共に、社会的弱者の身になって駅や車両の改善をしてきた。身体・知的障害者の運賃割引制度も先駆けて実施してきた。

精神障害者にも地域に出て生活

出来る一つの支援をして欲しい。

長野OB会

A・K

1万5750筆集まる

全地本OB会から集約された署名簿

大熊会長から武井総連委員長へ

昨年九月二十五日から今年の二月一五日までの期間で、本部OB会が取り組んだ「脱原発を實現し、自然エネルギー中心の社会を求めろ」全国署名は、一〇〇〇名を超え、OB会員の参加を得て、一万五七五〇筆の署名が集まりました。



脱原発の署名簿/大熊会長から武井委員長へ手渡す!

今回の署名活動は、OB会員の関心も高く、家族・親戚ばかりか多くの人の協力も得ました。中でも街頭に出て「署名活動」をしながら署名をしてくれる方、日頃の地域活動で親しくなった大勢の人達の協力を得るなど、

工夫した取り組みを行なった地本OB会もありました。

現在も福島第一原発事故で生まれ育った故郷を離れ、不自由な生活を強いられている多くの被災者の中に、私達のOB会の仲間もいます。いつ故郷に戻れるかわからない被災者は、福島の流れの民、となつて全国各地に避難させられています。

事故から一年経つた今も、生活保障のための災害補償交渉も進展しないまま、明日無き「明日」の不安を抱えて過ごしているのです。

政府は、こうした放射能から逃げ惑う福島県民の悲惨な状況をよそよそ、海外に向かつては早々と原発輸出の締結交渉を押し進めました。

他方、国内にあつても福島原発の事故原因が究明されない中で、休止中の原発の早期再稼働を目論み、今や多数派となつた脱原発の国民世論を無視して、御用学者による「安全」確認のお墨付きを基に、根拠なき政治判断を強行しようとしています。

署名活動は、五月末まで有効です。さらに上積みを図り、1千万署名を達成しましょう!

再稼働を許すな！ さようなら原発1000万人アクション3・24集会

3月24日13時東京の日比谷野外音楽堂に「さようなら原発1000万人アクション」実行委員会」の呼びかけに添えて、労働組合員や脱原発を訴える都民など6000人が集まりました。



さようなら原発/日比谷集会に結集したOB会員

曇り空の中、首都圏在住のOB会員100余名も、JR総連の各単組の組合員と共に参加しました。

コウタローさんの「トーク&ライブ」が始まりました。

主催者を代表して作家の鎌田慧さんと澤地久枝さんのスピーチがあった後、原発事故があつた被災地・福島から、柏崎刈羽原発を抱える新潟の代表から「現地の声」が届けられました。

集会のまとめは、テレビ等で活躍されている作家の落合恵子さんの小気味いい「まとめの言葉」を頂き、終了しました。

集会在る前に降り出した小雨によって、会場は色とりどりの雨傘で彩られていましたが、集会の終わりにには雨もすっかり上がり、雲の間から陽が差し込みました。

パレードは、日比谷野外音楽堂から都心の虎ノ門、経済産業省前を通って六本木と続き、三河台公園まで元氣に行進しました。

OB会も1000余名でOB会旗と横断幕を先頭にして梯団を組み、「原発はいらない」「再稼働反対」などのシュプレヒコールを行ないながら、全員が最後まで行進しました。

《OB会員の必読書》

『我らの声』(13号) 発行間近!



皆で聞こう

大震災の被災者の声を! 原発事故への怒りの声を!

その他、豊かな第2の人生を過ごすOB会員の豊富な体験が満載です。

4月下旬発行予定 頒価 500円

□ 次号から紙面の内容の一部が変わります。

OB声の広場

私のエルダー職場 紹介します

このコーナーは今月号で終了します。

◆次号(171号)からは、新しく人物紹介のコーナーが始まります。

標高千百以上の軽井沢 真冬のポイント注油作業は厳しい

長野地本・佐久支部OB会 宮崎 弘

私のエルダー職場 紹介します

長野支社・小海線営業所運行室の主任運転士であった私は、二〇〇七年八月退職と同時にエルダー社員として、長野鉄道車両整備株式会社へ就職しました。

当時のエルダー制度は六四歳まで働ける職場を確保してくれることが特典であり、現在のエルダー制度のようにJR社員としての身分やパス・住宅などの特典は一切ありませんでした。

しかし、当時の私にとって、第二の職場を確保して頂いたことに感謝して、新たな職場である新幹線軽井沢駅に赴きました。業務内容は、駅舎および町の施設の清掃ポイント(分岐器)12台への注油、課長として社員十四名の管理業務です。

軽井沢駅は、標高1100mに位置するため、夏は快適ですが、冬の寒さはとても厳しいものがあります。特にポイントへの注油は、土曜と日曜日に終電から初電までの間に12台の二六〇箇所に行なう作業で、四人で行なう作業としては大変な労力を必要とします。

昨年、エルダーとしての期間が終了し、現在は嘱託社員の課長として引き続き勤務しています。

JR東支組・佐久支部OB会の一員として支部事務室に集まり、話の花を咲かせたり、マレットゴルフや地本主催のゴルフに参加するのを楽しんでいます。